

## 平成27年度 全国保健師長会東北ブロック研修会 報告

平成27年8月1日（土）、山形県山形市保健センター3階大会議室を会場に、全国保健師長会東北ブロック研修会が開催されました。

山形県保健師長会が中心になって企画・運営し、県内から49名、県外から20名、合計69名の参加がありました。山形県内からは会員以外の若手保健師の参加もあり、他県の参加者と熱く語り合う様子が印象的でした。

### 1. 講演

#### 「地域における保健師の保健活動に関する指針を元にした保健活動の見える化と組織体制の整備」 日本看護協会 健康政策部 部長 村中峯子 氏

村中部長は、山形県立高等保健看護学院（現山形県立保健医療大学）の卒業生という“山形との深いきずな”を頼りに、超多忙なスケジュールを縫って、村中部長にお出でいただきました。

冒頭、日本看護協会の坂本会長からの「これからは保健師の時代である」というメッセージが伝えられました。

「病院完結型の医療」から「地域で支える医療・介護」へのパラダイムシフトが起きている。「病気の悪化＝入院という選択肢の乏しい時代」から「高齢者自身が老後をデザインできる時代」へと転換している。この時期に、団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、保健師の専門性を発揮すべきである。

講演の中で、「保健師活動指針」策定されるまでの経緯が語られ、「保健師活動指針活用ガイド」に込められた思いが伝わってきました。



<村中氏講演より>

#### 保健師をとりまく変化(平成15年以降)

##### ○保健事業の分業化/細分化, 業務分担や分散配置の進行

➡ ・多省多課が持つ100を超える事業が、市町村に“バラバラ”と下ろされてくる現実

##### ○個人に対する直接サービスの肥大化

一方、ソーシャルキャピタル(地区組織活動)と協働した“地域づくり”を推進する機能が脆弱に

➡ ・しかも、個人への継続的な直接支援は減っている。  
・単独世帯や家族の機能の低下とともに都市化の発展や地方の過疎化も進行しているなか、地域の自助・共助の重要性が再認識されている。  
・従来からの「地区組織活動」に参画し、体験している保健師の減少

#### 保健師をとりまく変化(平成15年以降)

##### ○個人に対する対人保健サービスのアウトソーシングが進行

➡ ・「地域住民の健康に責任を持つ」という行政保健師の中核的な役割機能の明確化、アウトソーシングの質の管理責任が曖昧になりがち。

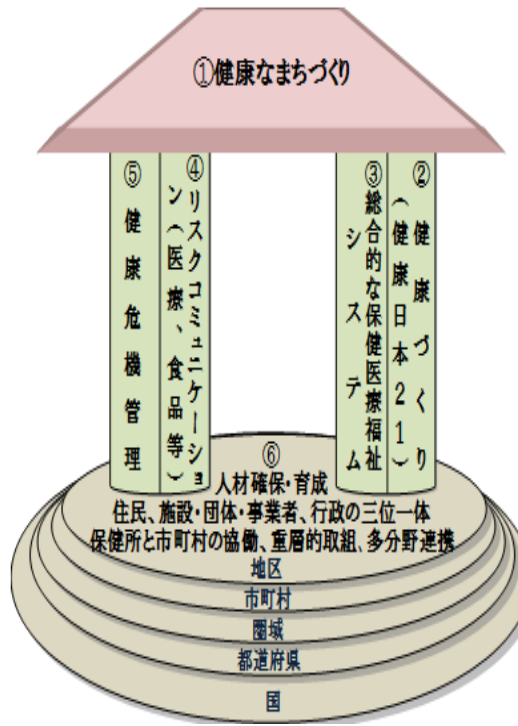
##### ○健康格差が深刻に。公衆衛生的な取り組みが必須

➡ ・国民健康づくり運動「健康日本21」(第二次)では、これまでの「個人の生活習慣に着目」という点からの脱却が指摘された。  
・今後の基本的な目標として「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が盛り込まれた。

##### ○東日本大震災の直後から現在に至るまで、日頃の“地域のつながり”が大きな役割を発揮

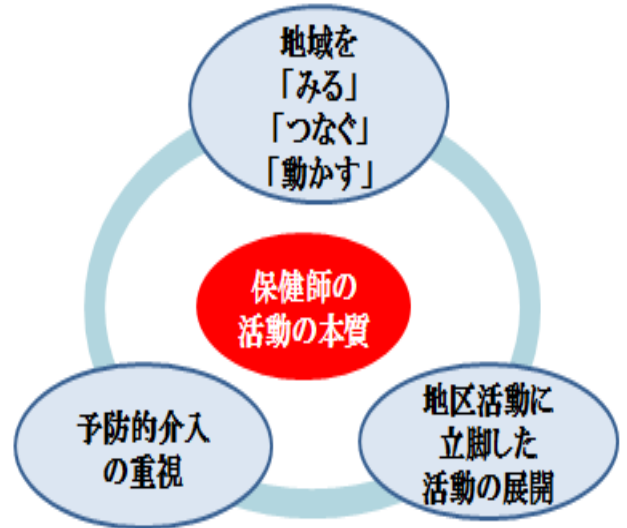
➡ ・日頃からの住民同士の繋がりが、保健師の活動のしやすさにも影響していることが見えてきた。

基本指針見直しに関する  
提言の構成

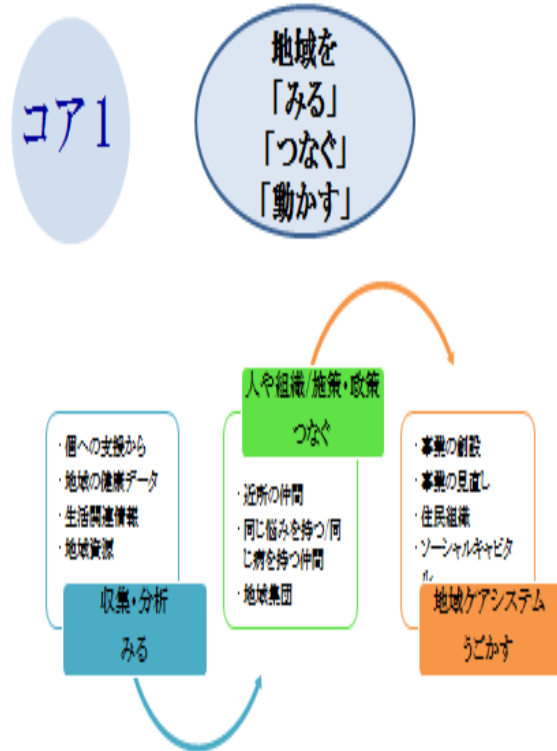


地域における保健師の保健活動について  
(俗称：保健師活動指針)  
(平成25年4月19日付け健発0419第1号)

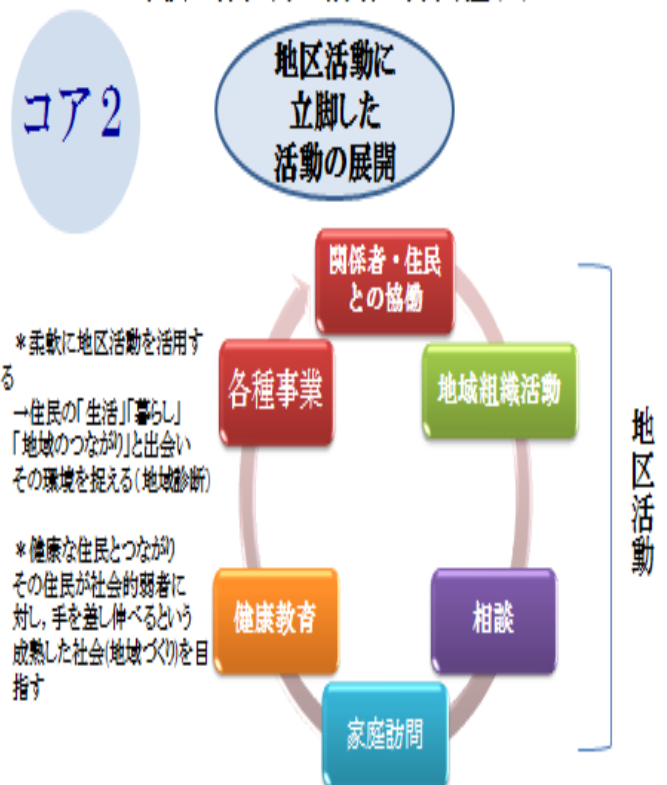
今後の保健師の活動の方向性



今後の保健師の活動の方向性(1)



今後の保健師の活動の方向性(2)



## 今後の保健師の活動の方向性(3)

コア3

予防的介入  
の重視

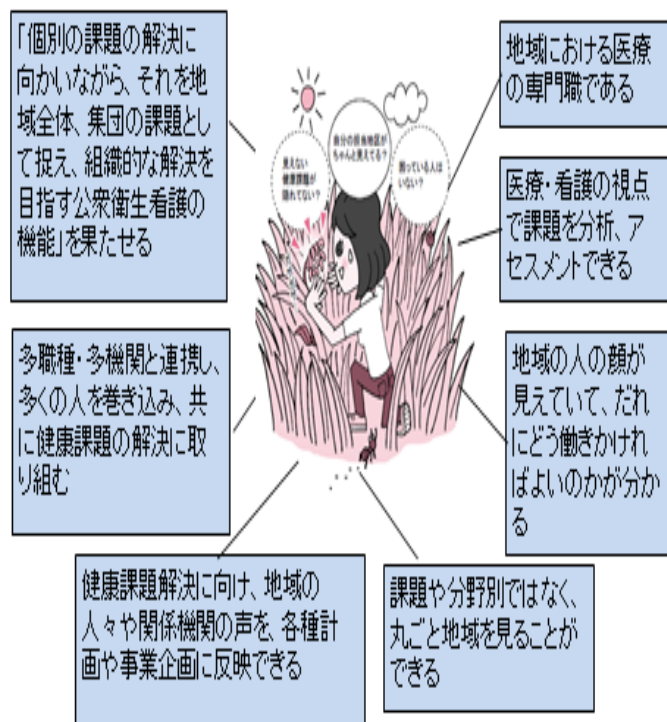
- ・潜在ケースの顕在化
- ・求めがなくても必要などに関わる機能の発揮

(低所得者/独居世帯/家族の機能不全/虐待(子ども、障害者、高齢者)  
経済的にも社会的にも問題を抱えるケース)

格差社会のど真ん中

地区活動を通して醸成した成熟した  
地域の情報網が自らSOSを出さない  
要介入事例をつなぐ

## 保健師の専門性を発揮する



17

33

## 2. 全国保健師長会活動報告

全国保健師長会常任理事 (岡山県健康推進課参事) 山野井尚美 氏

平成27年度全国保健師長会活動方針・活動目標の説明があり「今後の保健師活動の方向性」、「自治体毎の保健師活動指針策定に向けて」のポイントが提示されました。

### 平成27年度全国保健師長会活動方針

- ☆社会の課題に向き合う保健師活動の展開  
～保健・医療・福祉をつなぎ安心して  
健やかに暮らせるまちづくりの実践～
- 1) 地域保健福祉分野における専門性の確立
    - ・地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築
    - ・各自治体の保健師活動指針作成支援 など
  - 2) ブロック、支部活動の強化
  - 3) 息の長い被災地支援を実施
  - 4) 会員数の拡大

### 今後の保健師活動の方向性

今 大切なこと

- 保健師活動の原点に立ち返り、自らの活動を振り返る
- 将来の保健師活動を真剣に考え議論する
- 自治体毎に保健師活動指針の策定

一人ひとりの保健師が活動に向き合うこと

### 自治体毎の保健師活動指針策定に向けて

- 1) 自治体の保健師活動への思い
- 2) 指針が自治体の保健師活動の基礎
- 3) 指針が自治体組織内の保健師の意思
- 4) 自治体の他の計画を推進するための基礎
- 5) 行政内の理解者を増やす
- 6) 策定のプロセスが大切

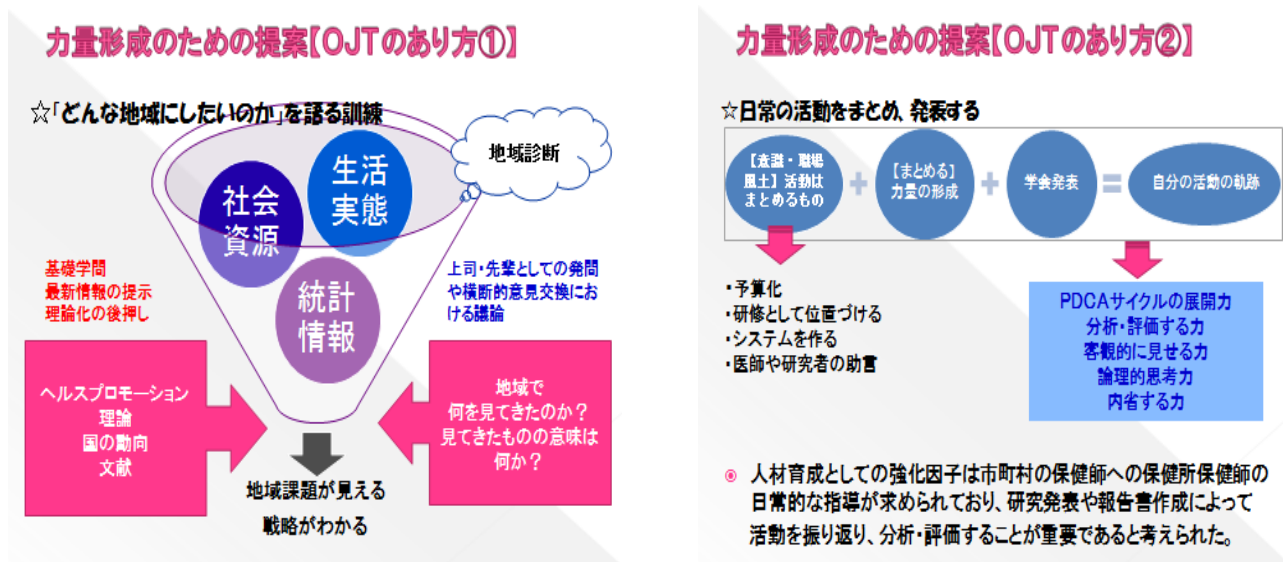


### 3. 調査研究報告

#### 「ソーシャルキャピタルの醸成に係る保健師の能力形成に関する研究」

全国保健師長会調査研究班（三重県名張市健康支援推進監）西 嶋知子 氏

平成25年度の研究から、「ソーシャルキャピタル醸成経験者」は、公衆衛生基本活動遂行能力が高く、自己研鑽しており、保健師の就業意欲の向上にも関連があることがわかり、平成26年度の研究から、職場内で力量を形成するための方法として、提案がありました。



### 4. グループワーク「私たちの保健師活動指針を考える」

#### 活動実践報告「全国に先駆けた青森県保健師活動指針の策定と実践」

青森県三八地域県民局地域保健総室課長 白戸江美子氏

「活動指針策定のプロセスを大事にしたい」、「まずは、職場内で保健師活動指針ガイドを使って勉強会を行いたい」等の意見交換がなされました。

保健師活動を語り合った3時間半の研修会を終了しました。山形県のおもてなし係長「きてけろくん」の効果もあり、他県の方々から喜ばれました・・・

